



No.19

学校図書館

2014年7月

司書だより

図書館クイズ

子どもたちがだいすきな童話『おしれのぼうけん』古田足日 著 についての問題です。さくら保育園には、こわいものがふたつあります。ひとつは『おしれ』さて、もうひとつはなんでしょう

- ① みずのせんせい
- ② ばばあちゃん
- ③ ねずみばあさん

本と読書

絵本と子どもと私

河合 みゆき

子どもの頃から、本を読むことが大好きでした。いつも学校の図書館の本を借りて読んでいました。が、今思えば、「読む」ということの中で最も好きだったのは、声に出して読む「音読」だったような気がします。

国語の時間の音読で、つかえたら交代というルールで、順番に読んでいく授業のときには、なるべく長く読みたいと思い、張り切っていました。それが今、私の読み聞かせの活動につながっているのではないかと思います。

私は今、子育て支援の場や中央・東図書館、小学校などで、子どもたちに絵本の読み聞かせをしています。子育て中は、家で、今は成人した三人の息子たちに絵本を読んでいるだけでしたが、図書館で読み聞かせをされている方に声をかけていただき、読むことが好きな私は、二つ返事で参加させていただきました。

活動を始めると、自分の子どものために図書館で借りたり、購入したりするだけでなく、読み聞かせのために用意することが、絵本との出会いをどんどん増やしてくれま

した。

読む場所で、聞いてくれる子どもたちの年齢は違います。子どもたちのことを思いながら、今日は何を読もうかと絵本を選ぶことも楽しみます。

○オの赤ちゃんは、泣いたり笑ったりで表現するだけで、まだ言葉を話すこともありません。そんなときには短い言葉や、きれいな色の絵本、「いないいないばあ」や「もこもこ」などを読みます。赤ちゃんたちはお母さんのおひざの上でキラキラと目を輝かせて見てくれます。



二、三才の子どものちは、じつとしてるのが少し苦手。でも、絵本を読みだすと、次は何が出てくるかととても興味を持って見えています。「たまごのえほん」「きんぎょがにげた」など、中から何かが出てきたり探したりする絵本が大好きです。



園児たちの前に読む絵本を取り出すと、よく「見たことある」「知ってる」という声

が聞こえてきます。それでは聞いてくれな



絵本の中の世界にワクワク、ドキドキしていると

小学生に絵本を読むときには、いつもはあまり読めない、少し長いお話を読むことができるので嬉しいです。みんなきちんと座り静かに聞いてくれます。「じく」のそうべえ「おまえうまそうだな」などを読むと、楽しい場面では大きな声で笑い、悲しい場面ではいっしょにしんみりしたり、読み聞かせを楽しんでくれます。



いろいろな場所で、子どもたちに読み聞かせを続けていることで、私の絵本の世界もどんどん広がり、どんな絵本を読もうかといういろいろな絵本を探す時間や、子どもたちと一緒に楽しんだり、ワクワク、ドキドキする時間が私の宝物となっています。

これからも読み聞かせの活動を続け、私自身が、新しい絵本、知らなかった絵本とたくさん出会い、それを子どもたちにいっぱい届けていきたいと思っています。

河合さんは、美濃加茂市の子育てサロンの先生で、子育て中のみなさんを温かく支援しておられます。長年、地域の子どもたちの読書活動も支えてくださっています。

読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました

インターネットやテレビなどから簡単に情報を入手できる環境の中で暮らしている生徒たちは、活字離れが進んでいます。また、読書をしたという気持ちがあっても、多忙な生活の中でその時間も取れないというのが現状です。そこで東中学校では、一日の授業が始まる八時十五分から二十五分の十分間を「読書タイム」として、本を読む時間としています。この時間中は、読書に専念することとし、他の活動は一切禁止としています。

家から自分の読みたい本を持ってきて読むこともできます。本の種類は特に特定していませんが、雑誌や漫画、絵や写真が多いものは、使用しないことになっています。



東中学校

読書タイムを毎日設けることによって、落ち着いた時間を持って、一日の学校生活を迎えることが出来ます。また、生徒が自主的に本を読む習慣を身につけることにより、課題意識を持って考え、判断しながら読書を進める中で、問題を解決する資質や習慣が育っていきま

良い結果をもたらすことでしょう。これからも読書タイムを利用してたくさん本を読んで、たくさんの方の言葉や表現方法を覚え、同時に日常生活では経験できないことを知る中で自分の世界を広げていってほしいと願っています。



各学級には、読書タイム用の図書を八十〜百冊設置し、生徒が読みたいと思う本を選ぶことができます。また、自分の

図書館クイズの答え

③ねずみばあさんでも…さとしくんと、あきらくんがおいしいでだいぼうけんをしたあとは、ねずみばあさんも人気者になっちゃいました。作者の古田足日さんは今年6月に惜しまれながら亡くなりました。『ロボットカミイ』『宿題ひきうけ株式会社』など子どもの本をたくさん残されています。

えほん



「ぞうのさんすう」
ヘルメ・ハイネ 作
あすなる書房1000円＋税
くいしんぼうのこどものぞうは、草を食べ眠り水を飲み、毎日まんまるのうんちを一つします。誕生日がくるたびにうんちは一つずつ増えます。このぞうが80年でするうんち

物語

「きげんなすて」
いとつひろし 作
徳間書店1300円＋税

あたしは、突然おさるの弟のお姉ちゃんになっちゃった。お母さんはおさるの弟ばかりかわいがる。わたしのことなんかほったらかし。それならいいよ、あたしはすてごになつて、すてきなおうちにもらわれるから…。家出した女の子は、どんなおうちにもらわれていくのでしょうか？お兄ちゃん、お姉ちゃんにおすすめ！おかあさんも必読！こどもの気持ちかわかります。続編もあります。



この本読んでみて！

小説

「だれも知らない小さな国」
佐藤さとる 作
講談社1100円＋税
ぼくは子どものころ、一度だけ小さな人を見た。大人になったばかりの前に再び姿を見せたこのロボットたちは、ずっと味方になってくれる人間が観察し続けていたという。選ばれたぼくはロボットの世界を守るのでしょうか。あなたもきつとロボットを自分の周りにさがしたくなりませんか。



大人向け

「誤解学」

新潮社1200円＋税
西成活裕 著

「正しい結婚の基礎は相互の誤解にある」オスカー・ワイルドの名言から始まる本書は、世の中の人の誤解による悩みや不安やを解消しようと、理系学者が自分の経験から作り上げ論じている。誤解とは何か、理論、原因、誤解が起きてしまった後の対応、社会における誤解の考察という構成になっている。作者は第二章を読みにかもれないから、流し読みでも構わないと言っている。事実、I≠M≠V≠Iなど定義や数式が出てくるので流し読み率が高いですが、理系の頭の中をのぞいていけるようで面白い。

